

## 再论包孕句中的形式名词ノ和コト

潘红娅

(湖南农业大学 外国语学院, 湖南 长沙 410128)

**摘要:** 在问卷调查的基础上,分析了日语包孕句中的形式名词ノ和コト的语用异同和相互置换的可能性。指出ノ和コト相互置换的可能性与格位置有关,ガ格ノ和コト的相互置换可能性大于其他格,而カラ格、マデ格、ヨリ格等位置受句法制约影响,几乎没有ノ专用句,但存在ノ、コト两用句。句式特征两者的区别为:ノ、コト两用的句子的主句谓语比较多样化,名词、形容词、形容动词、动词做谓语的情况都不少,ノ、コト两用句中的コト并不像コト专用句那样强烈地突出事情、事实、状况本身。

**关键词:** 包孕句;形式名词;格分布;ノ;コト;专用句;两用句

中图分类号: H36

文献标识码: A

文章编号: 1009-2013(2009)05-0091-05

### On the Formal Nouns “No”and “Koto”in Complex Sentence

PAN Hong-ya

(Foreign Languages College, Hunan Agricultural University, Changsha 410128, China)

**Abstract:** Based on questionnaire investigation, the article probes into the pragmatic differences and similarities between the formal nouns “no”and “koto”in the Japanese complex sentence and the possibility of mutual replacement of the two nouns. The investigation results show that the possibility of the mutual replacement between “no”and “koto”is related to the case place. The mutual replacement of “no”and “koto”in “ga”case is more possible than in other cases. The places of “kara”case, “made”case and “yori”case are restricted and influenced by syntax, and the dedicated “no”sentence is almost in no existence, but the dual-use “no”and “koto”sentence exists. The article also argues that the predication is various in the principal clause of the dual-use “no”and “koto” sentence and nouns, adjectives, adjective verbs and verbs can be frequently found to work as predications. “koto”in the dedicated “no”sentence is more likely to emphasize the fact, the matter and the condition than that in the dual-use “no”and “koto”sentence.

**Key words:** complex sentence; formal nouns; case distribution; “no”; “koto”; the dedicated sentence; the dual-use sentence

包含了成分化从句(或称附属句)的句子在日语中称为“包孕句”<sup>[1]</sup>。这些成分化的从句,如下面例(1)、(2)所示,一般都通过形式名词コト和ノ来构成。

(1) 荒若はいま、自分があらゆる荒若信仰の束縛から自由になったことを感じる。(青年の汚名)

(2) 母は働かなくなつて、松子の近づくのを待っていた。(日も月も)

以上句子中包含的コト和ノ与实质名词不一样,

因其几乎不具有实际的词汇意义,日本传统语法将这类词称为形式名词<sup>[2]</sup>。包孕句中这种起名词化功能的形式名词虽然很多,但其中最常用、并且在使用中最易混淆、最难分辨的还是コト和ノ,两者的使用异同一直是困扰日语教育者和日语学习者的一大难题。

如下面所示,同样是起名词化作用,有时只能用コト和ノ其中一个,有时又两者都能用。

(3) 麻衣は犯人が窓を開けて逃走するのを目撃した。(補文標識「ノ」「コト」に関する若干の考察)

(4) 国連はアメリカに戦争を止めることを要求した。(補文標識「ノ」「コト」に関する若干の考察)

(5) クラス全員が、新校舎建設が決まる{の/こと}を期待していた。(補文標識「ノ」「コト」に関

收稿日期: 2009-08-27

基金项目: 湖南农业大学 2007 年青年科学基金项目 (07QN85)

作者简介: 潘红娅(1979-),女,湖南东安人,讲师,硕士,研究方向: 日语语法、日语教育。

### する若干の考察)

关于这个难题,已有的研究虽取得了不菲的成果,但仍存在不足之处,如对制约コト和ノ进行相互置换的因素考察不够充分,并且某些先行研究结论中还存在许多互相矛盾之处。如词组“~に対して”前的成分化小句的名词化问题,姬野(1993)<sup>[3]</sup>、橋本(1994)<sup>[4]</sup>指出只能用ノ,庭三郎(2004)<sup>[5]</sup>则分别给出了“~に対して”之前用ノ和コト的实例。又如,表示异同或类似意义的句式“~と同じだ/同時だ/似ている/違う”等之前的成分化从句,到底是只能用ノ或コト其中之一,还是两者都能用,先行研究观点也很不统一。因此,很有必要对该课题进行深入调查。

笔者将只能用ノ的句子称为ノ专用句、只能用コト的句子称为コト专用句、コト和ノ两者都能使用的句子称为ノ、コト两用句。

为了更准确地考察包孕句中这三类句子的句法特征,采用实例分析和问卷调查的方法展开研究。从中日对译语料库中选出三种不同体裁的4部作品,将作品中包含形式名词コト和ノ的包孕句(不含表示语气的「のだ」、「ことだ」句)分成ノ专用句、コト专用句和ノ、コト两用句三类。为了准确地把握这三类句子相互替换的可能性,在日语母语者<sup>②</sup>的协助下,根据实际使用情况做了分类调查,将收集到的1213例分类,三类句子<sup>③</sup>的具体数量如表1所示。

表1 三类句子的数量

作品名	ノ专用句	コト专用句	ノ、コト两用句
《纵式社会的人际关系》	27	75	153
《独生子女优生法》	44	28	118
《适应的条件》	59	121	277
《挪威的森林》	92	82	137

## 一、ノ和コト的格分布差异

### 1. ノ专用句的格分布

笔者将从以上4部作品中收集到的1213个例句,按其句法功能即按照ノ或コト构成的成分化从句所处格位置的不同,进行了下位分类。在日语母语者<sup>②</sup>的协助下根据实际使用情况做分类调查后,结果<sup>③</sup>显示:ノ专用句有222例,大约占例句总数的18.3%。考察得到的不同格位置的ノ专用句的分布情况如表2所示。

表2 ノ专用句的格分布

种类	数量/句	平均判定人数 <sup>④</sup>	百分比 <sup>⑤</sup>
ガ格ノ专用句	37	10	83
ハ格ノ专用句	105	10	83
ヲ格ノ专用句	41	10	83
二格ノ专用句	19	8	67
テ格ノ专用句	10	8	67
ト格ノ专用句	10	8	67
カラ格ノ专用句	0	0	0
マデ格ノ专用句	0	0	0
ヨリ格ノ专用句	0	0	0
ヘ格ノ专用句	0	0	0

由表2可以看出,没有カラ格、マデ格、ヨリ格、ヘ格ノ专用句,也就是说句子名词化后做カラ格、マデ格、ヨリ格、ヘ格补语时,没有只能用ノ的句子,全都可以用コト来名词化,由此可以看出ノ受到的语法制约较大。另外,从平均判定人数及比率中可以看出,相对补格位置的ノ专用句,调查对象在主格、宾格位置的ノ专用句的判定上意见更为统一,也就是说补格位置的ノ专用句的探讨空间较大。

### 2. コト专用句的格分布

根据实际使用情况的分类调查,结果<sup>③</sup>显示コト专用句有306例,大约占考察例句总数的25.2%。考察得到的不同格位置のコト专用句的分布情况如表3所示。

表3 コト专用句的格分布

种类	数量/句	平均判定人数 <sup>④</sup>	百分比 <sup>⑤</sup>
ガ格コト专用句	159	9	75
ハ格コト专用句	54	9	75
ヲ格コト专用句	27	9	75
二格コト专用句	54	10	83
テ格コト专用句	6	12	100
ト格コト专用句	2	8	67
カラ格コト专用句	2	12	100
マデ格コト专用句	(1) <sup>⑥</sup>	12	100
ヨリ格コト专用句	2	9	75
ヘ格コト专用句	(8) <sup>⑥</sup>	12	100

由表3可以看出,所有格位置上都存在コト专用句。因此,可以认为相对于ノ而言,コト受到的句法制约较少。另外,从平均判定人数及比率中可以看出,テ格、カラ格、マデ格、ヘ格等位置上的コト专用句的判定上意见比较统一,ガ格、ハ格、ヲ格、二格、ト格、ヨリ格等位置のコト专用句的判定上存在较大分歧。

### 3. ノ、コト两用句的格分布

调查结果<sup>③</sup>显示ノ、コト两用句有685例,大约

占例句总数的 56.5%。考察得到的不同格位置的ノ、コト两用句的分布情况如表 4 所示。

表 4 ノ、コト两用句的格分布

种类	数量/句	平均判定人数 <sup>④</sup>	百分比 <sup>⑤</sup>
ガ格ノ、コト两用句	191	10	83
ハ格ノ、コト两用句	315	10	83
ヲ格ノ、コト两用句	95	9	75
二格ノ、コト两用句	38	8	67
テ格ノ、コト两用句	15	8	67
ト格ノ、コト两用句	25	8	67
カラ格ノ、コト两用句	2	10	83
マデ格ノ、コト两用句	(3) <sup>⑥</sup>	0	0
ヨリ格ノ、コト两用句	5	8	67
ヘ格ノ、コト两用句	0	0	0

如表 4 所示,主格及宾格位置的ノ、コト两用句相对于补格位置的ノ、コト两用句来说,数量上占绝对优势。换言之,就是说主语和宾语位置上的形式名词コト和ノ几乎都是可以替换的,其替换的可能性大于补格。从平均判定人数及比率中也可以看出,相对补格位置的ノ、コト两用句的判定,调查对象在主格、宾格位置的ノ、コト两用句的判定上意见更为统一,也就是说补格位置的ノ、コト两用句的研究有待深入。

#### 4. 两者的格分布差异

一是包孕句中形式名词ノ和コト的置换与成分化从句所处的格位置相关,主语位置上的ノ、コト两用句数量占绝大多数,即主语位置上ノ和コト的相互置换受到的制约比较少,可置换性强。与此相对,补格位置上的ノ和コト的置换,受到的语法制约较大,因此调查对象在专用还是两用的判定上存在的分歧较大。

二是ノ受到的语法制约较大,具体而言:句子名词化做カラ格、マデ格、ヨリ格、ヘ格补语时,不存在只能用ノ的句子;テ格、ト格、カラ格、マデ格、ヨリ格上既有ノ、コト两用句又有コト专用句;ヘ格上既没有ノ专用句,也没有ノ、コト两用句,只有コト专用句,也就是说句子名词化之后做ヘ格补语时,只能用コト。

#### 二、ノ和コト的句式特征差异

野田(1995)<sup>[6]</sup>指出,无论是Josephs还是坪本与工藤,都暗示人们必须从成分化从句的内容以及主句谓语两个方面来研究形式名词ノ和コト。因此,笔者也将结合问卷调查结果,从这两方面来考察ノ专用句、コト专用句和ノ、コト两用句的句式特征。

#### 1. ノ专用句的句式特征

ノ专用句在句式上存在以下两个特征:首先,主句谓语动词主要为“見る、聞こえる、感じる、悔しがる”等知觉动词以及“待つ、手伝う、直す、送る、”等具体的动作性动词<sup>[7]</sup>。其次,成分化内容大都为具体的动作或状况<sup>[8]</sup>,并且和主句谓语之间存在同时、同场面发生的关系<sup>[9]</sup>。以下将问卷调查得到的ノ专用句按照格位置各选取一例,从主句谓语和成分化内容两方面来探讨。

(6) 僕が部屋に戻ったのは三十分後で、棟の入口まで来るとレイコさんがギターを練習しているのが聴こえた。(ノルウェイの森)

(7) 「まさか。こんなに明るい月を見たのは久しぶりだったから電灯を消してみたんですよ」(ノルウェイの森)

(8) 僕は彼女が食器を洗うのを手伝った。(ノルウェイの森)

(9) お父さんの授業参観はそれなりに意味があり、子どもの教育への関心を高めるのにも役立っています。(一人っ子の上手な育て方)

(10) 我々は駅の近くのそば屋に入って軽い食事をした。喉が乾いたので僕は一人でビールを飲んだ。(ノルウェイの森)

(11) そういうのってね、男の人のごつごつした指でやられるのと全然違うのよ。(ノルウェイの森)

问卷调查结果显示,ノ专用句主句谓语种类丰富多样,名词、形容词<sup>⑦</sup>、动词所有能构成谓语的词类都能出现在ノ专用句的主句谓语部分。上述例句中主句谓语动词“見る”、“手伝う”、“役立つ”分别属于先行理论中总结的知觉动词、动作性动词以及发现动词<sup>[3]</sup>。由此可知ノ专用句的主句谓语动词确实多为知觉动词或动作性动词,而且上述例句中的成分化从句无一例外均是借助五感官直接体验的具体的动作与事项。

#### 2. コト专用句的句式特征

如同考察ノ专用句的句式特征一样,要分析コト专用句的句式特征,也必须兼顾主句谓语和成分化内容。コト专用句的句式特征体现在主句谓语多为抽象性动词,成分化内容多为抽象内容<sup>[8]</sup>。抽象性谓语动词包括“しゃべる、伝える”等传达动词,“命じる、禁じる”等意志动词,“思う、信じる”等思考动词,

以及“ある、きめる、できる、する”等将事态当作一个统一整体来捕捉的动词等<sup>[10]</sup>。以下将考察得到的コト专用句按照格位置各选取一例来进行探讨。

(12) 日常の人々の付き合いとか、人と人とのやりとりの仕方においては基本的な面ではほとんど変わっていないことが指摘できる。(タテ社会の人間関係)

(13) このような組合の構成では、組合は企業体としての団結に貢献することはあっても、異なる企業に散在している同じ職種についている者たちの間には、真の連帯感というものは育たない。(タテ社会の人間関係)

(14) でも、やはりレッスン中一人だけ先生の言うことを聞かず遊び出したりします。(一人っ子の上手な育て方)

(15) そのために、日本のグループはしらずしらず強い「ウチの者」「ヨソ者」意識を強めることになってしまう。(タテ社会の人間関係)

(16) 僕が僕自身であることで、僕はなんだかうしろめたいような気持になった。(ノルウェイの森)

(17) 人間関係の強弱は、接触の長さ、激しさにローカルであるということは、直接接触的であるということと必然的に結びついている。(タテ社会の人間関係)

(18) その結果、故国の人々の響きを買ってしまうことになることからみても、彼らの作戦はただけなものである。(適応の条件)

(19) 一方、庶民の外国への移住は、彼らが自ら進んでしたというよりは、彼らの故郷の環境が彼らをソトにおし出したという性質のもので、現地で建設的な世界をつくることよりも、つねに故郷に錦を飾って帰ることを目的としていた。(適応の条件)

(20) 喜助に毎夜の拒否を喰ったことへの報復的な思いがこのとき頭を走ったのだった。(越前竹人形)

问卷调查结果显示,不存在名词谓语句コト专用句,即当主句谓语为名词时,不存在コト专用句,句子都可以用ノ来名词化。这验证了備前轍(1983)<sup>[11]</sup>的理论:“名詞述語文を他の用言述語文から切り離す根拠は、名詞述語文に限って「ノ」はすべての文に可能であるからである。”(名词谓语句不同于其他用言性谓语句的根据在于,ノ能用于所有的名词谓语句。)以上例句同时表明,成分化从句作主语、谓语的例句

中,コト专用句的判定既与谓语句的抽象性有关,又与成分化内容的抽象性有关。与此相对,成分化从句作补语的例句中,コト专用句的判定几乎不受主句谓语句的制约,只与成分化内容的抽象性有关。并且所有这些コト专用句都在强烈地突出事情、事实、状况本身。

### 3. ノ、コト两用句的句式特征

ノ、コト两用句的主句谓语为动词时,多为“邪魔する、さける、止める、防ぐ”等表示放弃的动词,“知る、わかる、忘れる、気づく”等认识动词,以及“期待する、非難する、喜ぶ、後悔する”等表示感情或评价的动词;主句谓语为形容词时,多为“当然だ、普通だ、大切だ、不公平だ”等表示评价的形容词,“むりだ、困難だ、簡単だ、大変だ”等表示难易的形容词以及“楽しい、辛い、嫌だ、嬉しい”等表示感情的形容词<sup>[10]</sup>。成分化从句的内容既可以看作一个整体统一的事态,又可以看成一个具体的动作。以下将考察得到的ノ、コト两用句按照格位置各选取一例来进行探讨。

(21) 人の上に立って、指導していくのが苦手である。(一人っ子の上手な育て方)

(22) 先生は、こんな頭の悪い子がいるだろうかと思ひ、将来ひとり立ちして生活していくのはむりだろうかといっています。(一人っ子の上手な育て方)

(23) そして集団成員の行動力は、完全に既存組織を前提としていることを忘れてはならない。(タテ社会の人間関係)

(24) その一つの大きな特色は、諸社会の比較において、社会学などが「西欧社会」からでてくる理論をつねに規準として、他の社会に適用していくのに対して、社会人類学においては、「西欧社会」というものを比較の規準にしない、ということである。(タテ社会の人間関係)

(25) いろいろな研究から、きょうだいといつても、五歳以上も離れてしまうと、ふたりのひとりっ子を育てるとかわりがなく、ふたりとも、ひとりっ子としての長所、欠点をもつ、といわれています。(一人っ子の上手な育て方)

(26) 女はむつとしてうなだれると、襟をすかしているから、背なかの赤くなっているのまで見え、なまなましく濡れた裸を剥き出したようであった。(雪国)

(27) さらに、技術導入に関連していえば、既存の技術・方法を変えることよりも、まったく新しい

技術を移植するほうがずっと抵抗を生まないものである。(適応の条件)

调查结果显示,ノ、コト两用句的主句谓语虽然种类多样,但主要是和人的认识或判断相关的谓语词。同时,考察以上例句可知,成分化从句作主语、谓语的例21、22以及23中,谓语词与人的认识或判断相关。与此相对,成分化从句作补语的例24和例25,如前言部分提到的那样,先行研究从主句谓语性质的角度,有将之判为ノ专用句的,也有将之判为ノ、コト两用句的,观点并不统一。本次调查对象的日语母语者普遍认为,这些补格位置的ノ和コト的互换很大程度上只受到了成分化从句性质的制约。由于这些成分化从句既可以看作一个整体统一的事态,又可以看成一个具体的动作,所以70%左右的调查者都将这类例句判为了ノ、コト两用句。例26和例27被判为ノ、コト两用句也是基于上述原因。

#### 4. 两者的句式特征差异

(1) ノ、コト两用句的主句谓语和ノ专用句一样比较多样,但主要是和人的认识或判断相关的谓语词。相对ノ专用句主句谓语种类的多样性,不存在名词谓语的コト专用句,即当主句谓语为名词时,不存在コト专用句,所有句子都可以用ノ来名词化。

(2) 成分化从句充当句子主语、宾语及ト格补语时,ノ和コト能否进行相互置换既由主句谓语性质决定也受成分化从句性质的影响。与此相对,成分化从句充当テ格、カラ格、マデ格、ヨリ格补语时,ノ和コト能否进行置换很大程度上与主句谓语性质无关,只是由成分化从句本身的性质决定。

(3) 通过对カラ格、マデ格、ヨリ格コト专用句和ノ、コト两用句的对比与分析,可以看出コト专用句是对客观事实、状况的客观描绘与强调。

### 三、 结语

从日语原文小说中收集大量实例,并进行问卷调查和分析,对ノ和コト的语用特征进行了较深入的考察,通过分析比较ノ专用句、コト专用句以及ノ、コト两用句中ノ和コト的具体格分布,以及这三类句子的句式特征,比较客观地阐述出了日语形式名词ノ和コト的一些新的使用差异,如形式名词ノ和コト在使用中受到成分化从句所处格位置的制约以及ノ、コト两用句中的コト并不像コト专用句那样强烈地突出事情、事实、状况本身等等。但由于资料不够充分,加

之调查对象人数有限,不可否认部分地方的分析还存在主观意识。研究中尚有很多不充分或者不够细致之处。如影响ノ和コト置换的其他因素以及“という”的介入会对ノ和コト的置换产生怎样的影响等等,这些都将成为作者今后的课题继续展开,以期将日语形式名词研究推向更深入。

#### 注释:

- ① 因调查的例句数量庞大,所以本次问卷调查对象暂为12人,均为日本某大学日语教育专业在读学生。
- ② 基于例句数量繁多,60%以上的调查对象判定为专用或两用的例句,本稿即视其为专用句或两用句。
- ③ 平均判定人数是指按以上60%原则总结出来的专用句或两用句中,判定这些句子是属于专用句或两用句的人数的平均值。
- ④ 比率为平均判定人数/总判定人数\*100%。
- ⑤ 考察对象中无相关例句时,笔者将考察范围扩大到整个语料库,括号表示的例句数是从考察对象以外的作品中得到的例句数。
- ⑥ 本论文所指的形容词包括传统语法的形容词和形容动词。

#### 参考文献:

- [1] 朱林. 有属文的构成与形式名词“こと”和“の”[J]. 华南理工大学学报, 2001(2): 70-73.
- [2] 松下大三郎. 標準日本語口語法[M]. 東京: くろしお出版, 1930: 24.
- [3] 姫野昌子. 日本語教育における「ノ」の指導[J]. 日本語学, 1993(12): 92-99.
- [4] 橋本修. 「ノ」補文の統語的・意味的性質[J]. 文藝言語研究・言語篇, 1994(25): 153-166.
- [5] 庭三郎. 現代日本語文法概説[DB/OL]. (2008-03-03). 陈友东, 译. <http://www.geocities.jp/niwasaburoo/index.html>.
- [6] 野田春美. ノとコト一埋め込み節をつくる代表的な形式[M]//宮島達夫・仁田義雄. 日本語類義表現の文法(下). 東京: くろしお出版, 1995: 419-428.
- [7] 工藤真由美. ノ、コトの使い分けと動詞の種類[J]. 国文学解釈と鑑賞, 1985(3): 45-53.
- [8] 久野暉. 日本文法研究[M]. 東京: 大修館書店, 1973: 137-142.
- [9] 坪本篤朗. 文の中に文を埋めるときコトとノはどこが違うのか[J]. 国文学解釈と教材の研究, 1984(6): 87-92.
- [10] 佐治圭三. 「の」の本質—「こと」「もの」との対比から—[J]. 日本語学, 1993(11): 4-14.
- [11] 備前徹. 名詞述語文の補文の構造[J]. 日本語教育, 1983(51): 107-117.

责任编辑: 黄燕妮